

策定委員会開催日程		
日 時	内 容	備 考
令和1年6月3日(月) 19:00～20:00	準備委員会 地区社協役員に説明	紫塚地区社協 役員会にて
令和1年7月8日(月) 19:00～20:30	第1回委員会 委員長・副委員長の選出 設置要綱の承認	策定委員会 発足
令和1年8月30日(金) 19:00～20:30	第2回委員会 目指す地域像候補(46件)の説明	協議体会議 と合同
令和1年10月4日(金) 19:00～20:30	第3回委員会 地域課題(172件)の目標別 グルーピング作業 (グループワーク)	
令和1年11月15日(金) 19:00～20:30	第4回委員会 目指す地域像の決定 取り組み目標を「仕組みづくり」「人づく り」「機会づくり」に決定	協議体会議 と合同
令和1年12月20日(金) 19:00～20:30	第5回委員会 「仕組みづくり」「人づくり」「機会づくり」 の各々で、具体目標を検討 (グループワーク)	
令和2年1月17日(金) 19:00～20:30	第6回委員会 小地域福祉活動計画書の案を審議 タイトル案以外は決定	
令和2年2月21日(金) 19:00～20:30	第7回委員会 最終まとめ	協議体会議 と合同

★地区社会福祉協議会とは？

地域福祉は、地域みんなの**ふだん**のくらしの**し**あわせを、みんなで考え、みんなで進めます。

地区社会福祉協議会(地区社協)は、地域の**ふくし**のために、「自分たちの地域を自分たちで良くしていこう」という、地域に暮らすみなさんが主役の活動です。

★協議体とは？

地域の困りごとを、みんなで**話し合**い、地域資源を活用しながら、みんなで力を合わせて解決していくように、**支え合**いの仕組みづくりを進めています。

★見守り隊とは？

見守りが必要な方が、慣れ親しんだ地域で、安心して自立した生活ができるよう、**見守り**や買い物支援など、地域ぐるみで支援体制をつくっています。

ほっとすまいる紫塚

を目指して

《第 1 次 小地域福祉活動計画 2020 年度～2023 年度》

小地域福祉活動計画って？

将来を見据え、私たちが住んでいる地域の良いところや課題などを話し合い、みんなで協力しながら「ささえ合いの地域づくり」(互助・共助)を進めるための「紫塚地区社会福祉協議会」の計画です。

目指す地域像

つながりと支え合いで、笑顔とあたたかさにあふれる、住んでいてほっとする地域

～ほっとすまいる紫塚～

紫塚地区小地域福祉活動計画策定委員会 ◎委員長 ○副委員長					
No.	氏 名	役 職 等	No.	氏 名	役 職 等
1	◎ 藤 沼 久 子	紫塚地区社協会長	15	古 森 孝 雄	成田町自治会長
2	○ 磯 親 芳	紫塚地区見守り隊総隊長	16	増 淵 三 好	経塚自治会長
3	金 房 信 雄	紫塚地区社協副会長	17	佐 藤 重 敏	紫塚ニュータウン自治会長
4	井 上 達 夫	紫塚地区社協副会長	18	花 崎 宏	成田町自治会監査役
5	渡 辺 伸 子	紫塚地区社協児童福祉部会部長	19	小 室 昇	深川ほほえみセンター長
6	長 谷 川 光 紀	紫塚地区社協公報部会部長	20	山 岡 修 二	西地区民生委員・児童委員協議会副会長
7	疊 昇	紫塚地区社協福祉奉仕部会部長	21	田 尻 眞 知 子	民生委員・児童委員
8	高 瀬 弘 美	紫塚地区社協給食部会部長	22	伊 藤 三 良	民生委員・児童委員
9	印 南 浩 美	紫塚地区社協会計	23	木 村 喜 美 江	紫塚地区福祉委員連絡網代表者
10	近 靖 子	紫塚地区社協会計	24	斎 藤 貴 洋	おおたわら保育園主任
11	猪 瀬 孝 一	紫塚地区社協庶務	25	舩 山 一 洋	紫塚小学校 PTA
12	伊 藤 直 子	紫塚地区社協庶務	26	河 内 久 美 子	大田原市中央地域包括支援センター
13	小 野 寺 尚 武	栄町自治会長	27	田 城 紗 や か	大田原市中央地域包括支援センター
14	渡 邊 教 道	深川自治会長	28	松 浦 哲 夫	紫塚地区第2層コーディネーター

発行年月: 令和 2 年 3 月 編集: 紫塚地区社会福祉協議会 連絡先: 大田原市社会福祉協議会(☎ 23-1130)

紫塚地区の人口構成等

(2020年1月1日現在)

人 口	年 少 者 (0 ～ 14 歳)	743人	自 治 会 数	7自治会	
	生産年齢(15～64歳)	3,500人	世 帯 数	2,682戸	
	高 齢 者 (65 歳 以 上)	1,570人	高 齢 化 率	大 田 原 市	29.3%
	紫 塚 地 区 合 計	5,873人		紫 塚 地 区	26.7%

紫塚地区の特色

紫塚地区は、紫塚小学校校区を基本とし、昔からの伝統を引継ぎ、その地で生まれ育って古くからの知り合いが多い地域から、大田原以外からの転居者が多く、最近になっても分譲地が増え住民が増加している地域まで、様々な性格をもっています。また、日常生活面では、市役所や市の関連施設、大田原高等学校、複数の大型商業施設を有するなど、大田原市の中でも比較的恵まれた地域です。

地域行事の「ふれあい紫広場」は、紫塚地区社会福祉協議会と紫塚小学校が共同で開催することで、地域の連携を深める場であり、子どもたちも自分たちで計画・実行する発表の場でもあります。子どもから高齢者に至る多くの人々が触れ合いを通して連帯感をつちかうとともに地域に寄与する資質をもつ子どもを育てることを理念としています。

しかし、全国的な近隣関係の希薄化は当地区でも進んでおり、ここからの脱却を目指し、「お互いさまの支え合い」が当たり前になれる地域づくりを目指し取り組んでいます。



地域住民一人ひとりが、お互いさまの支え合い地域づくりを目指して 紫塚地区が取り組んでいくこと

目 標		実現のための主たる具体目標(取り組むこと)	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
仕組みづくり	普段の見守りから、災害時の避難支援まで、地域で取り組む支援の仕組みを考えます	地域支え合いマップづくりで地域の現状を見えるようにして、支え合いの地域作りを目指します	詳細企画・検討	実施自治会を決めながら随時実施		
		見守り隊員のあり方の検討などで、見守り活動の充実を進め、すそ野の拡大を図ります			実施・継続	
		町内のチョット手助けメニューの作成などで、ちょっとした困りごとへの対応ができる仕組みづくりを進めます			実施・継続	
人づくり	人づくりは、地域づくりのかなめ。人生のベテランから若い世代に引き継ぐ地域の宝を育てます	仕掛けづくりをする人、子ども目線での地域づくりなど、適材適所の人材を発掘・育成を進め、継続した地域づくりができるようにします			実施・継続	
		親子で参加するクリーン運動や救急法講習など、子どもや親を巻き込んだ地域活動を進め、人材の育成を図ります			随時実施	
機会づくり	来る人も主催者も、参加者全員が楽しく集えるふれあいの場を作ります	地区全体レベルの楽しいイベントや、自治会ごとの楽しいイベントを開催し、住民が集まりやすい機会を作ります			随時実施	
		住民たちが気軽に集まり、お茶のみなどをしながら会話ができる環境(居場所など)づくりを進めます			実施・継続	

計画実施の詳細は、紫塚地区協議体活動を通して検討しながら進める

